

# 「東大寺西七重塔模型設計図」について

はじめに 奈文研では、東大寺からの受託研究である東大寺東塔の復元研究を進めている。それに関連して、受託研究の中間報告<sup>1)</sup>を契機に、2020年10月に上久保仁氏から奈文研に「東大寺西七重塔模型設計図」(以下、「模型図」と仮称)の寄贈の申し入れがあった(図6)。模型図は、寄贈者や研究の委託者の東大寺と協議して、東大寺が寄贈を受け所蔵している。奈良時代創建の東大寺七重塔は、明治末頃に天沼の復元図が発表されている(以下、「天沼図」と仮称)。天沼図は、『建築雑誌』<sup>2)</sup>の図面(以下、「雑誌図」と仮称)と奈良県の報告書<sup>3)</sup>の図面(以下、「報告図」と仮称)の2つがある。本稿では模型図を紹介し、天沼図との関係から、その位置づけと製作の体制を考察する。

**基本情報** 縦56.4cm×横37.1cm。鉛筆とインクの線が混在する。縮尺は1:200で、スケールバーは現代尺(1尺=303mm)で描かれる。日英博覧会に出品する模型の設計図として、明治41年(1908)に製作されたとわかる<sup>4)</sup>。

**製作者** 上久保九一郎氏は、奈良県の建築技師を務めた。担当した奈良県の文化財建造物の修理工事は、明治30年~大正9年(1920)に10件確認でき、そのうち9件は天沼らの監督のもと、現場主任などを務めた<sup>5)</sup>。塔の修理工事は3件あり、模型図の明治41年頃は、天沼の監督のもと、興福寺三重塔の修理工事に携わっていた。

**寸法** 計測寸法を表5にまとめた。通減の規則性は判然としない。初重の二~三手の出は大きい。天沼図は、柱間寸法と高さの通減は当麻寺東塔を参考にし、軒の出は幾何学的に描画したという<sup>2)</sup>。初重の二~三手の出が大きい点、尾垂木や地垂木の勾配は、当麻寺東塔に類似する。組物の手先間隔の通減や垂木勾配も当麻寺東塔を参考にした可能性は考えられる。

**天沼図との比較** 模型図と天沼図の主な情報を表6にまとめた。全形の立面図と右半分のみの断面図の構成は、各図で共通する。模型図と雑誌図は、露盤の意匠が異なるものの細部の描画はよく似ている。報告図は、立面図に軸部の飾金具や上重の連子窓の表現を加え、

表6 各図の主な情報

図面	表題	年紀	縮尺	発表年
模型図	東大寺西七重塔模型設計図	明治41年	1:200	未発表
雑誌図	東大寺東塔院及西塔院塔婆	なし	なし	明治43年7月
報告図	東大寺東塔及西塔計画図	明治42年7月	1:50	大正7年3月

初重の柱の胴張も直線的に調整している。断面図にも内部構造を描き加えている。年紀、発表年や描画から、模型図→雑誌図→報告図の順に製作されたと推察される。

**模型図の位置づけ** 模型図と雑誌図の類似性、インクの仕上げの範囲、年紀などから、模型図は初期の下描きではなく、製作の終盤にあたる完成に近いものと思われる。表題に「西七重塔」と明示されている理由は不明である(天沼図では、東西両塔は同じ意匠・寸法)。

**製作体制** 製作者の経歴から、模型図は天沼が監修したと考えられる。天沼図の製作者は明確でないものの、同様の製作体制が推察される。模型図と天沼図は、修理工事の監督と実務担当者による組織的な製作と考えられる。天沼図の製作者はこれまで不分明であったが、模型図の製作者名によりその存在が濃厚となった。

**おわりに** 奈良時代創建の東大寺七重塔の復元に関する新資料を紹介し、その位置づけと製作の体制を考察した。天沼による東大寺の塔院回廊や南大門などの復元図<sup>2)</sup>も、組織的な体制で製作された可能性が考えられる。文化財建造物の修理工事以外にも、当時の奈良県の建築技師の職域をうかがうことができ、興味深い。

(山本光良)

## 謝辞

本稿にて紹介した資料は、上久保仁氏・育子氏のご厚意により寄贈いただいた。ここに感謝申し上げます。模型図の製作者である上久保九一郎氏は、仁氏の祖父にあたるといふ。

## 註

- 1) 目黒新悟「鎌倉時代再建の東大寺東塔－東大寺東塔の復元研究2－」『紀要2020』。
- 2) 天沼俊一「創立当時に於ける東大寺南大門、東西両塔院及び其沿革」『建築雑誌』283、315-333頁、1910。
- 3) 天沼俊一「東大寺東塔院及西塔院址」『奈良県史蹟勝地調査会報告書』5、奈良県、17-42頁、1918。
- 4) ただし、右下に鉛筆で「明治四十二年一月 上久保」とある。
- 5) 奈良県教育委員会『文化財保護100年のあゆみ』1968。

表5 計測寸法

層数	柱間寸法			組物手先間隔			軒の出			勾配	
	中央間 [mm][尺]	両脇間 [mm][尺]	総間 [mm][尺]	側〜一手 [mm][尺]	一〜二手 [mm][尺]	二〜三手 [mm][尺]	側〜三手 [mm][尺]	三手〜木負 [mm][尺]	木負〜茅負 [mm][尺]	側〜茅負 [mm][尺]	尾垂木 [mm][尺]
七重	—	22.0 14.8	44.0 29.6	4.0 2.69	4.0 2.69	7.5 5.05	15.5 10.44	13.5 9.09	8.5 5.72	37.5 25.25	6.07 4.01
六重	—	25.5 17.2	51.0 34.4	4.0 2.69	4.0 2.69	7.0 4.71	15.0 10.10	12.5 8.42	9.0 6.06	36.5 24.58	5.98 4.07
五重	20.0 13.5	18.5 12.5	57.0 38.5	4.5 3.03	4.0 2.69	6.5 4.38	15.0 10.10	14.0 9.43	9.0 6.06	38.0 25.59	6.04 3.97
四重	23.0 15.5	20.5 13.8	64.0 43.1	4.5 3.03	4.0 2.69	6.5 4.38	15.0 10.10	14.0 9.43	9.0 6.06	38.0 25.59	6.28 4.18
三重	24.0 16.2	22.0 14.8	68.0 45.8	5.0 3.37	4.5 3.03	7.5 5.05	17.0 11.45	12.0 8.08	9.0 6.06	38.0 25.59	5.96 3.94
二重	29.0 19.5	23.5 15.8	76.0 51.1	4.5 3.03	4.5 3.03	7.5 5.05	16.5 11.11	13.5 9.09	9.0 6.06	39.0 26.26	5.95 3.89
初重	31.0 20.9	25.5 17.2	82.0 55.3	5.0 3.37	4.5 3.03	9.0 6.06	18.5 12.46	12.0 8.08	9.0 6.06	39.5 26.60	5.84 4.03

※ [mm]は計測値、[尺]は計測値からの換算値を示す。天沼は1天平尺を0.98現代尺としたため、それに倣い1尺=297mmとして換算した。木負と茅負の出は下端外角で計測した。



圖6 「東大寺西七重塔模型設計圖」 1：500（東大寺所藏）